

電気通信大学 平成18年度シラバス

授業科目名	文化人類学 B		
英文授業科目名	Cultural Anthropology B		
開講年度	2006年度	開講年次	1、2年次
開講学期	2、4学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	総合文化科目-人文・社会科学科目-		
開講学科・専攻	情報通信工学科 情報工学科 電子工学科 量子・物質工学科 知能機械工学科 システム工学科 人間コミュニケーション学科		
担当教官名	南里 浩子		
居室	非常勤講師		

公開E-Mail	授業関連Webページ

<p>【主題および達成目標】</p> <p>(a) 文化人類学は、人文社会科学の一つとして、人類文化の基礎を学ぶ学問である。前期の文化人類学Aにおいては、人類文化を自然環境との関わり合いを中心とした生態学的な視点と、『交換』を中心とした経済人類学的な視点から見てきたが、この文化人類学Bにおいては、それらを基礎としながら、「社会」や「文化」に一層の比重をおいて考察する。テーマとしては、個人、家族、親族や部族、ジェンダー、王権社会、民族、国民国家といった社会システムのあり方、そしてそれに深くかかわるさまざまな「文化装置」としての言語、宗教、儀礼といった諸現象を、現代社会に生きる私たちの問題として考えながら授業を進める。</p> <p>(b) 達成目標としては、第一に、世界の多様な民族学的な事例とそれにもとづく知見を理解することによって、私たちが生きている社会のあり方（家族、性差、結婚など）を、相対化すること。第二に、近代の国民国家化の流れの中に、民族紛争、宗教対立が生じているということ、そのメカニズムを理解すること。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
なし

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
文化人類学A

【教科書等】

参考書：綾部・田中「文化人類学と人間」（三五館）

山下・船曳「文化人類学のキーワード」（有斐閣双書）

小田亮「構造人類学のフィールド」（世界思想社）

【授業内容とその進め方】

授業の内容は、以下の14回の予定である。

第1回 フィールドワークと異文化理解

第2回 個人と親子関係-『父』とは何か

第3回 親族と出自1-近くの他人より遠くの親戚？

第4回 親族と出自2-子は誰のもの？（母系制）

第5回 性と結婚-なぜ女性の交換か？

第6回 結婚とインセストタブー-イトコは結婚相手？

第7回 王権社会と再分配-国民国家へあと一歩？

第8回 国民国家の成立-近代西欧の政治システム

第9回 民族とエスニシティ-新たなアイデンティティ

第10回 ジェンダーとセクシュアリティ-女とは何なのか？

第11回 超自然の世界-宗教とは何か？

第12回 変身の装置・通過儀礼-成人式はなぜ荒れる？

第13回 現代の宗教-イスラムの潮流

第14回 異文化理解へ-オリエンタリズムを超えて

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

(a) 評価方法：

期末試験および出席・小レポートの結果を、次のように総合評価する。

成績評価 期末試験 80%

出席・小レポート 20%

(b) 評価基準：

1. 出席数・提出物の半分

2. 期末試験の設問に関して、授業の内容を理解していること。

【オフィスアワー：授業相談】

原則として、授業の後の時間に相談に応じる。それ以外でも、適宜相談に応じるが、電話などで事前にアポイントを取ること。

【学生へのメッセージ】

教科書はないが、内容は難しくないので、授業を良く聞いて理解して欲しい。

【その他】